

栄村の歴史・遺跡

栄中学校 小池将之

1. はじめに

栄中学校では本年度より総合的な学習の時間に「さかえふるさと塾」が行われるようになった。これは3つの講座に分かれ、栄村の歴史・食文化・伝統工芸品について地域の方から学ぶという取り組みである。その中で栄村には様々な遺跡や歴史的な建造物があることを学び、実際に現地に行って見たり、発掘調査を行ったりした。総合的な学習の時間だけでなく社会科の歴史的分野でもよい教材になるのではないかと思い、調査を行った。

2. 調査内容

(1) 古文書から読み解く栄村

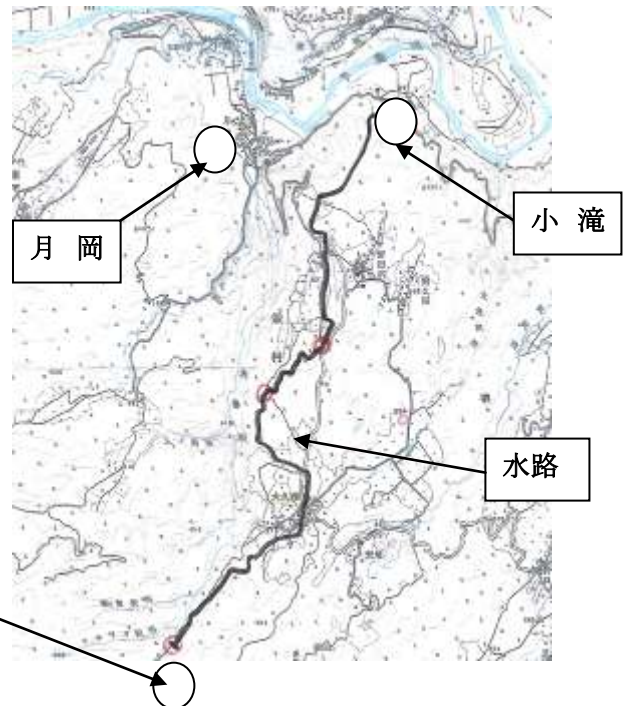
まずはじめに、古文書から栄村には昔どのようなことがあり、現在とどのようなつながりがあるかということについて調査を行った。この古文書は江戸時代の栄村のある集落の訴えが書かれているものである。内容を要約すると以下のものである。

『当時（江戸時代）、小滝集落では近くに川がなく稲作ができませんでした。そこで水路を作ろうと考えました。しかし、隣の集落である月岡集落から川の水の使用の許可が下りませんでした（小滝に水の使用を許可すると月岡で使用する水量が減少してしまうから）』。

後に月岡の人から許可があり小滝集落の人々は長さおよそ6 kmに渡る大規模な水路を引くことができた。このときにつくられたのが「小滝セギ」と呼ばれるものである。



上流部の様子



貯水池

上の写真は現在の「小滝セギ」の様子である。このときのものが現在も使用されており、地域の稲作や消雪などに利用されている。ちなみに小滝集落でつくられているお米「小滝米」は有名であり、集落活性化の一つとなっている。



地図

(2) 栄村の遺跡

右の地図は栄村で土器が発見された場所と城跡を示している。赤い部分が土器が出土された場所でありこれだけ多くの場所で土器が見つかっている。そのうち、長瀬新田遺跡と泉平遺跡の2カ所で現地調査を行った。



①長瀬新田遺跡

志久見川左岸に位置する縄文時代の遺跡であり、約5000年前の火焰型土器などが出土しており、当時集落が形成されていたことが予想される。火焰型土器は新潟県内の信濃川沿岸で出土し、津南町が南端と考えられていたが、栄村でも使われていたことが分かってきた。

そこで実際に土器や石器などを探してみた。



およそ1時間あまりでいくつかの土器や石器等のかけらを発掘することができた。

②泉平遺跡

泉平地区は栄村の西部に位置している。この地域にはまだ発掘がそこまで進んでいないため、実際に発掘調査に参加させていただき土器や石器の調査をした。およそ2m×2mほどの場所を合計4カ所ほどを実際に掘ったり、削ったりしながら調査を進めた。中からは土器のかけらや矢じりのようなものが出土した。



3. 終わりに

今回は身近な地域の歴史を実際に現地へ赴いてみて学んだ。中学校の歴史分野を苦手とする生徒が多い。それは覚える語句が多いというものもあるが、実生活と結びつきにくいという理由もあると考える。栄村の場合、各地に各時代の遺跡や歴史的建造物等が残っているので、学習の際には身近なものや結びつけることで、より理解を深めたり、興味をもたせたりすることができると思う。限られた授業時間の中で地域の素材を生かしながら学習を進めていく必要があると感じた。